

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 浪漫	代表者	黒岩 尚文	法人・事業所の特徴	その人らしく、住み慣れた地域で暮らし続けることを目指している法人である。小規模多機能ホームだから、宝島唯一の事業所であり、小さなコミュニティということもあり、地域との関わりなしでは、事業所は成り立たない。地域の方からのご意見を頂く機会が多い。
事業所名	小規模多機能ホームだから	管理者	米倉 優介		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	3人	人	7人	人	1人	1人	人	8人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一人ひとりが具体的な行動計画を持ち寄り、目標を達成するための計画を作成。 ・スタッフ個人、事業所の強みを活かす計画を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に面談等を行い、各スタッフの目標達成を支え合える環境を作っている。 ・強みを生かすための年間計画の行事を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・良いところを伸ばす視点は良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ一人ひとりが具体的な行動計画を持ち寄り、目標を達成するための計画を作成。 ・スタッフ個人、事業所の強みを活かす計画を作成する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・窓は開け、庭で過ごす時間を増やす。 ・事業所とコミセンに催しを、朝礼後、利用者さんと掲示する。 ・事業所にも掲示板を設置する。 ・不在時には施錠。 ・樹木については、来年度に向けて検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎやかな様子がわかり入りやすい。 ・オープンにする意識を感じる。 ・イベント前に放送で呼びかけがあるのが良い。 ・庭に花が無い、鉢が放置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を徹底してほしい。事業所を通して、島民に習慣づけることができれば。 ・庭に、テーブルだけでなく椅子も置いて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示板を設置する。 ・花やイスなどを用意し、過ごしやすい庭づくりを行う。 ・感染症の流行期には、来所者にも手洗い、うがいを呼びかける。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の催しに、事業所として参加。 ・地域の高齢者のつながりを見える化し、訪問・声掛けの中で、関係性を切らないように関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が集まっている場所（売店横）にスタッフが顔を出しているのが良い。 ・つながりの見える化はぜひしてほしい。 ・一部の職員しか参加していない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や保育園と交流し、高齢者と子供のつながりを。（職場体験など） ・十島全体を見てつながりを。 ・あまり集まりに出てこない高齢者が心配。 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会の活動日程や事業計画を事前に知り、より密接にかかわっていく。 ・見守り支援活動に、スタッフ全員が交代で参加する。 ・高齢者と子供が交流する場作り
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・気になる高齢者の情報（本人、ご家族の声等）を記録し、包括と見守り支援員と情報を共有し、共に考え、行動していく。 ・月日と関わった場所等を記録し、高齢者の孤立を防ぎつつ、その方の変化、生活のリズム等の情報を共有する。 ・一人ひとりのニーズに応えるために、企画を一緒に考え実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の行事に利用者が参加する機会が減っている。 ・地域の力を借りて支援できるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者以外でも送迎の必要性があるのでは ・相談したいことがあっても、スタッフの誰に言ってもいいかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のつながりを見える化し、それをもとにした支援体制をつくる。

<p>E. 運営推進会議を活かした取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・建設的な会議の場にするために、来年度より、年間を通しての年次計画にそった議題を提案した上で、その時必要な議案を話し合う場にする。 ・会議でのご利用者の状況、地域との関わり、運営推進会議で話し合われたことの報告の際に、写真等を使い、日頃の関わりの様子を情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を使った報告がわかりやすい。 ・グループワークの方が話しやすい。 ・レジュメを事前にもらっておくと、周囲の人からも意見をもらったうえで会議に参加できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討を運営推進会議とするのは良くないのではないか？自分のことが議題にあがるようなら会議に参加したくない。 ・島全体で高齢者を支えるという意識付けが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの議案も話し合える場にする。 ・改善計画の取り組み状況を定期的に報告する。
<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ間でマニュアルを確認し、運営推進会議でマニュアルの周知し、意見をもらう。 ・高齢者向けの消火訓練の実施。(消防団に要相談) ・地域の方にも、防災訓練への参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団、見守り支援活動と共同で地域の高齢者向けの消火訓練を行えた。 ・状況に応じて、マニュアルの更新が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時には利用者の安全確保を第一に考えてほしい。 ・マニュアルの内容は知らなかった。 ・現場で素早く行動することが大事。マニュアル頼りにならず、指示系統を統一すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな場面を想定した訓練を行い、災害時に取るべき行動を確認する。 ・地域の高齢者の状況を消防団と共有する。